

NEWS RELEASE

2014年1月30日
株式会社三菱総合研究所

オリンピック・レガシーに関する意識調査を実施

5割の国民が五輪を契機に良い社会変化を期待、運動開始など個人の行動変化の兆しも

株式会社三菱総合研究所(代表取締役社長 大森京太 東京都千代田区永田町二丁目 10 番 3 号)は、2013年12月に全国3,500人に対し、オリンピックによって持続的にもたらされる効果(レガシー)に関する意識調査を実施しました。その結果、オリンピックを契機として社会が良くなることへの期待は約5割と高く、分野としては、観光、国際交流、復興、健康、安全、環境等への期待が高いこと、また若い世代を中心に運動や外国語の勉強を開始するといった行動変化(無形レガシー)の萌芽も出始めていることが確認されました。

オリンピック・パラリンピック(以下、五輪)には、スポーツの祭典としての期待だけではなく、大会を契機に様々な持続的な効果(レガシー)が開催地にもたらされることが期待され、IOCもその推進を図っています。レガシーには有形(インフラ整備等)、無形(人々の意識や習慣等)のものがありますが、当社は、国民がどのようなレガシーを期待しているのか、今後、大会までの期間にそれがどのように変化し、また、個人の意識や行動にどのような変化をもたらすのかを確認するため、定期的に調査を実施することにいたしました。

2013年末に実施した第1回調査(全国3,500人、20-60歳代男女)の結果、以下が明らかになりました。

※調査には三菱総合研究所が有する「生活者市場予測システム」(<https://mif.mri.co.jp/>)のパネルを使用

- 2020年東京五輪に対する期待:五輪を契機とした良い社会変化を期待している層が約50%
(東京在住者の期待がやや高い)
- 五輪を契機に期待する良い社会変化の分野:観光、国際交流、復興、健康、安全、環境
(地方・被災地では健康や復興、若い世代では観光の期待が高い)
- 招致決定による影響:運動や外国語の勉強などについて人々の行動に変化の萌芽
(20歳代など若い世代での変化の度合いが大きい。既に20歳代の約22%が行動及び気持ちに変化)

当社は、今後も継続的に調査を実施するほか、レガシー創出に向けた異業種・産学官の検討の場として「オリンピック・レガシー検討会」を2014年4月に発足するなど、五輪を契機とした、わが国の課題解決に取り組んで参ります。

本件に関する問い合わせ先

株式会社 三菱総合研究所 (<http://www.mri.co.jp/>)
〒100-8141 東京都千代田区永田町二丁目 10 番 3 号

【内容に関するお問い合わせ】

“ビジョン2020”推進センター (担当 浜岡)

電話:03-6705-6098 ファクシミリ:03-5157-2167 メール:hamaoka@mri.co.jp

【取材に関するお問い合わせ】

広報部 峰尾、山村、渋谷、永井

電話:03-6705-6000 ファクシミリ:03-5157-2169 メール:media@mri.co.jp

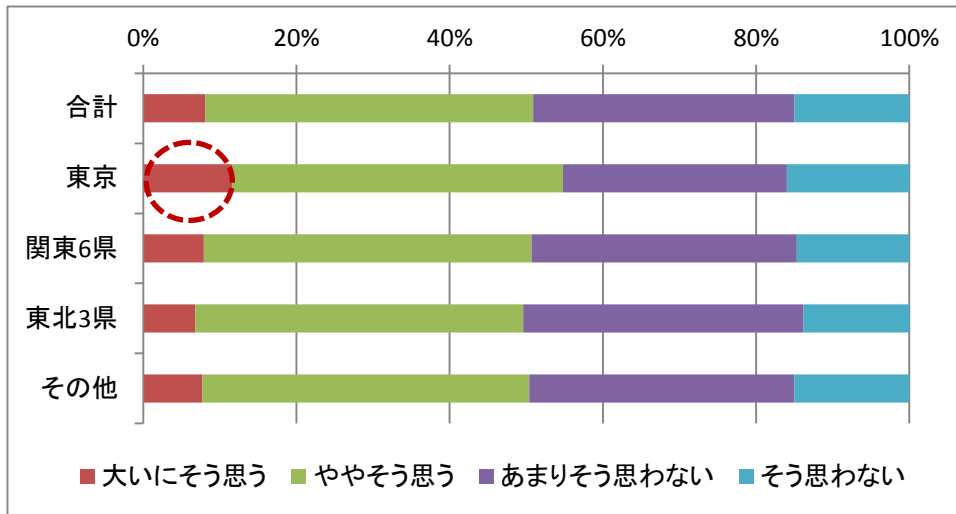
第1回 オリンピック・レガシーに関する意識調査(参考データ)

(1) 調査概要

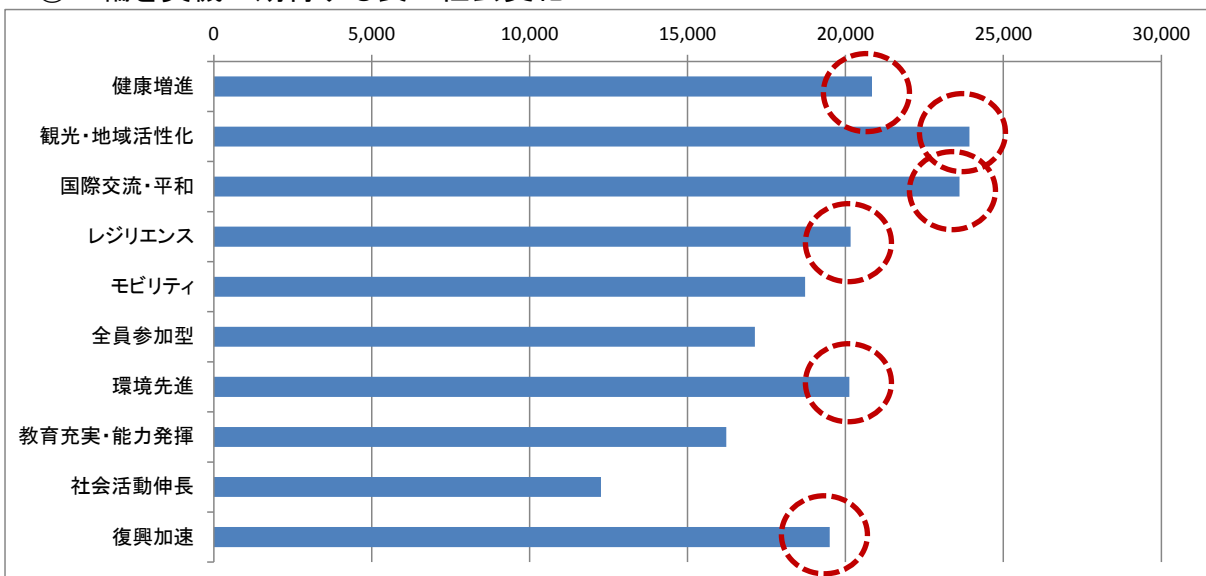
- ・調査対象: 全国 20-60 歳代の男女 3,500 名
- ・調査時期: 2013 年 12 月 13-16 日
- ・サンプリング: 東京都 1000、関東 6 県 1000、東北 3 県(被災地)500、その他地域 1000
(年齢、性別は上記地域毎に国調年代別人口比に基づき割り当て)
- ・集計: 地域別回答数を国勢調査人口比(全国)に基づいて重みづけ(ウェイトバック)

(2) 調査結果

① 2020 年東京五輪に対する期待(2020 年東京五輪を契機に社会が良くなるか)

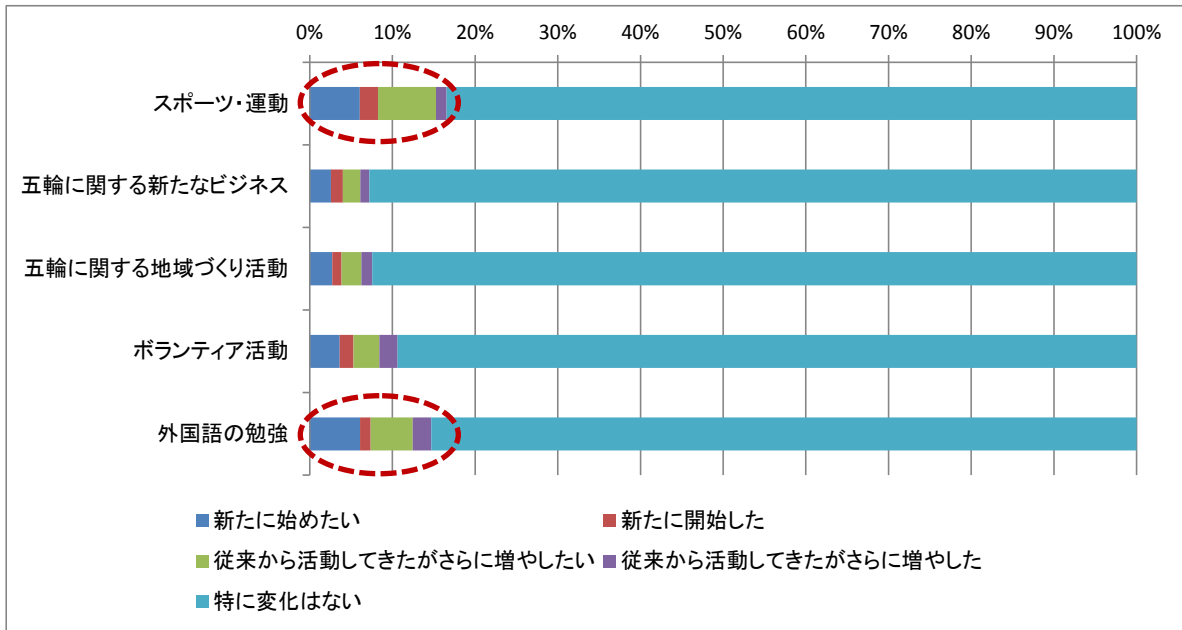


② 五輪を契機に期待する良い社会変化



注: 重視すべき順位を 1~10 位まで回答したデータについて 1 位 10 点、2 位 9 点...10 位 1 点として点数化

③招致決定による影響



【「スポーツ・運動」に関する年代別クロス】

